

だが、他の私より小さい子供までやつてゐるのさ、もし大きい子供の命令に反くさ一大事なのであるから、思ひ切つてやることにした。仲間外れにされることは、子供の世界では一番大きな問題であるから、病弱な私なき、いつも大きい子におきかされてゐた。そこに父親の手のさぐかぬ教育もあるのであらう。さて恐る恐るその繩を命の繩さ、一生懸命につかまへて中途まで進んで行つた、バタバタ足で水を蹴りながら。實に必死の業なのである。するさ今迄二人の男の子が張つてゐたその繩が急につかまへやうもなく、弛められてしまつた。今はそんな繩に命を托しては居れない。両手の力のあらん限り、バタバタ水を掻いて、或は沈み、或は浮き、水も相當に飲んで泳ぎに泳いだ。眼は見えない。しかし努力は報いられて近くの岩に、目的の岩に、到頭かぢりつくことが出来た。ぢつ私私の動作を見つめてゐた男の子は「よし」と言ひ放つた。アアアア云つて、水からやつミ顔を上げた私は、半泣になつてゐたが、男の子の賞讃の聲を聞いて、嬉しくなつた。遂に私は泳ぎを教はつたのである。その間實に數分を出でない。泳ぎは正にこの手に限るさ、私は今も確信してゐる。子供の頃、よく人が犬の子を川に捨てるのを見たことがあるが、犬もやはり同じやうに泳いでゐる。即ち人間も實際は生れながら泳ぎ得る動物に造られてゐるのである。私は今も、龜山の岩角を想

ひ出して、あの男の子、あの川に感謝をささげる。

エアリ・ビーコン

エアリ・ビーコン エアリ・ビーコン

あの楽しい景色！

戀人が私のところへ登つて来る時

エアリ・ビーコンから見た町や州の

エアリ・ビーコン エアリ・ビーコン

二人寝ころんだ楽しい時よ！

エアリ・ビーコンの羊齒深く

夏の日中を語り合ひつゝ

エアリ・ビーコン エアリ・ビーコン

あゝ私には味氣ない處

エアリ・ビーコンに一人ぼつち

あの人の子を膝にのせて

——チャールズ・キングズレ——